

本稿は、日本のマンガ表現の発展に関心を持つ筆者が、その発展の土台となる集団や共同体の内実を理解する一助とするため、アマチュア同人誌作家が集まる即売会に参加した体験をもとにしたマンガである。

(個人情報保護のため、創作と体験をおりまぜています)



2：背景

A子は一体何を
しているのだろうか？

「同人誌」とは…
自費出版の創作
物のことであり



「同人誌」とは…
「自費出版」とは…
自費出版の創作物を
直接売り買ひする
即売会のことである

そして、A子は

「二次創作」と呼ばれる
既存の創作物（二次創作）
を元にした創作…

いわゆるパロディの
作品を描いているのだ

同人一人に
よるものもある
物販会も開催して…



株式会社赤ブー主催
「コミックシティアイ」に
初参加のふたり

うわー
有名な三角形だ

ほんとうだ…

やってきたのは
東京ビッグサイト
である



広い展示場のうち
どかが会場なのか
さっぱりだが

キャラクターズの
群れの波について
行けば大丈夫だろう

なるぞ
なるぞ…

よく聞くけど
本当にそう
なんだ…

ちなみに二次創作中心の
コミックシティアイへの
参加者のうち99%が
女性である



3：設営

A子は連日の疲れと緊張で疲労していた

頼んだもの買ってきてくれた……うー

うん百均で

マジ感謝……

百均は同人活動の強い味方

これ、設置園なんだけど

えっ わざわざ置いてきたの

不卒……

「イベント」では「一般参加者」と「サークル参加者」に分けられる。サークル参加者は一般よりも1~2時間早く入場し、「サークルスペース」という名のお店を設置する。

180cm×45cmの事務長机の半分が1スペースであり、ここを飾りつけたりつけなかったり

運来や参加辞退するサークルもある

いわばクリエイターズマーケットの一種であり、基本的には何を売っても良いが、後述するように、主役は同人誌(本)である

東京イベントは1スペース6千5百円、プラス手数料4百円、さらに交通費と宿泊代を合わせると、A子は参加のためだけに少なくとも6万円出費している

高い趣味だよね……

参加費は1000円、サークル参加費は5000円

この日の募集は8千スペースであり、最終的に1万9千人の来場者があつたとのこと



5：頒布物

今回A子は白痴
劇つたと教えてくれたが
本来何部印刷した
のかを尋ねることは
マナー違反とされる

秘密ね

売りの上げが予想できて
しまうからであるが
売上の予想がよくない
理由はさらに
いくつがある

大きな理由のひとつは
著作権の問題だろう
同人活動は厳密には
法的に曖昧な
位置付けにある

二次創作同人作家たちは
「著作権を侵害するが故に
本家で作ってしまおう」
「こと」愛する作品の
著作権を侵してしまおう
「このダブルライセンス
抱えているのである

今更けあ
中にいる

「リターン」週刊は
30時間やこ

彼女たちは決して
同人誌を「盗む」「複製」
と書かず、「頒布する」
「お返しする」等と
言い換えるのである

こんな大変な
思いをして……

筆者はそこに多少の
白々しさを感じつつも

それが二次創作
界隈によく行き渡った
マナーである
という事実から

彼女たちの情まじき
大きな謙虚さに
思いを馳せるのである



6：A子の同人歴(前半)

A子と私は中学生のとき
地元の地方イベントで
2回ほど一緒にサークル
参加したことがある

いなかの小さな
即売会

初めて参加した際
コピー本が
3冊売れたのは
いい思い出だ



当時は3Dネットワークカードや
携帯、手作りシールなどが
お土産の定番とされていた

またスケッチブックを
持参して絵を描いて
もらう「スケッチ」という
文化もあり



私たちにとって
同人イベントとは
おしゃべりしたり
空気を楽しむもの
であった

つまりサマシイ牧場的マ
ンガ文化

今回初めて
オフセット印刷を
発注したA子は

これを一生かけて
売っていくつもり

……であり
スペースでのんびり
楽しく過ごすために
スケブや趣味の押しゴム
ハンコを持参していた

あのー
新刊ください

お客さんだ！

はいっ



7: A子の同人歴(後半)



8：趣味

